

# 夫を亡くして娘に頼ろうとしている 自分にハツとしました。

## 今は自分の時間を自由に使えることが嬉しい

神戸へゆうゆうの里

尾崎悦子様(70歳) 平成29年1月 一人入居

夫の突然の死にしばらく呆然と

主人が72歳のとき大腿骨骨折で入院しました。車椅子を使っていたのですが、まっすぐ進まない。それで見ていると片手が動いていなかったのです。お医者さんに詳細に調べてもらうと、ステージⅣの肺がんと診断されました。病状は思いのほか早く進行し、骨折入院から2ヶ月ほどで亡くなってしま



文化作品展で「パッチワークキルトを楽しむ会」のお仲間と(中央が尾崎様)

その母が頸椎の手術をきっかけに要介護状態に。その後、認知症も出て大変だったのですが、看取るまでの10数年間、在宅で母を支えました。母は元気な時に出来ることをちゃんとしてくれ、私は私ができることをして母にお返しできました。

こうして介護の大変さを知り、自分も母のようになるかも知れないという不安もあったのでホーム入居を決めました。へゆうゆうの里には中学校の恩師が住んでいて、私はよく遊びに来ていましたので、雰囲気もわかっていましたから、やはりここが良いと結論を出しました。

### パッチワークキルトと共に

入居して「自分だけの時間を持ちたい」という願いが叶いました。これは、母や妹たちなど大勢の家族が同居して暮らした時からの願いでした。自由になった時間を楽しんでいきます。運動は昔から苦手でしたが、入居前からアスレチックジムは自分のペースでできそうな気がしていました。アクアビクス仲間も増えました。吹き矢サークルも気に入っています。

私の大切な趣味にパッチワークキルトがあります。入居してから「パッチワークキルトを楽しむ会」



ご自身の作品の前で

いました。全く予期せぬ事態に、お葬式が終わってからというもの、朝起きて気が付くと仏壇の前で1時間ぐらい座っていました。ぼーつとしていたことが多くなりました。私は3姉妹の長女だったので、今まで精神的に人に頼ることはあまりなかったのですが、この時ばかりは、近くに住んでいる娘に頼ろうとしました。ある時ハツと「これではよくない」と気づきました。

### 母を看取るまで介護してお返しができる

主人が元気な時から、「どちらか一人になったら老人ホームに入ろう」と話していました。それは母の介護経験があったからです。私は生まれてから母が亡くなるまで、ずっと一緒に暮らしてきました。結婚後も私たちは共働きだったので、母が料理を手伝い、子どもの世話もしてくれました。

を毎月2回続けています。パッチワークキルトとの出会いには思い出がありますが、自己流で始めたのですが、ある日、自作のテーブル掛けが濡れたのでベランダに干していたら、子供会で知り合った人が声をかけてくれ、本格的に教えてもらえるようになりました。それから35年以上になります。介護をしているときもパッチワークキルトが癒しになりました。パッチワークは小さいピースを繋げると、それが集まりどんどん大きくなり、作品になると思わぬ効果がでて来ます。今でも先生に習っています。自分が選んだ布に、先生がちよつと布を足したり引いたりすると、それだけで仕上がりが全く違って来ます。どんな色の配合になるかわくわくするところが好きです。

これからも仲間と一緒に楽しく、自分のしたいことをずっと続けて行きたいな。